

も い 森 林 の 話

第 41 話

檜山森林管理署

佐藤 ひな夢

若手職員のコーナーです

新規採用職員として檜山森林管理署に配属されてから、早くも3年が経ちました。これまでは経営担当として勤務していましたが、今年度から乙部森林事務所へ異動となり、現場業務に携わっています。現場に出る機会が増え、森林管理の難しさや重要性を日々実感しています。

今回は、勤務する中で特に印象に残った「縁桂風景林」について紹介したいと思います。

【縁桂】

縁桂は乙部町字富岡に所在するカツラの巨木で、隣接する2本のカツラが枝で繋がった「連理の木」として知られています。縁結びの木として地域の方々や観光客に親しまれており、美しい自然景観を楽しめるスポットとしても有名です。私も実際に現地を訪れましたが、森林の中に堂々と立つ大きなカツラの木と、その周囲の景観に強く印象を受けました。静かな森林空間の中で自然の雄大さや豊かさを感じることができ、多くの人を訪れる理由を実感しました。



被災前の縁桂風景林

しかし、縁桂周辺は令和7年8月の大雨により大きな被害を受けました。現地では流木の堆積や遊歩道の損壊など、自然災害の影響が今も残っており、改めて自然の力の大きさを感しました。普段何気なく見ている森林も、豪雨などの自然災害によって大きく姿を変えてしまうことがあります。



被害を受けた遊歩道

その現状を見て、森林を維持し管理していくことの難しさを強く実感しました。

また、現場業務を通じて、森林には木材生産だけではなく、土砂災害の防止や水源のかん養、景観形成、観光利用など、様々な役割があることを改めて学びました。特に縁桂のような場所は、地域の方々にとって親しみのある場所であるとともに、重要な観光資源としての役割も担っています。そのため、森林を守り育てていくことは、地域とのつながりを守ることにもつながっているのだと感じています。

森林事務所へ配属されてからは、実際に現場へ足を運ぶことで初めて気づくことも多く、机上だけでは学べない経験の大切さを日々実感しています。巡視の際には季節ごとの森林の変化を目にする機会も多く、自然環境が常に変化していることを感じます。そうした変化を把握しながら適切に森林を管理していくためには、日々の巡視や調査を継続していくことが重要であると学びました。

【最後に】

まだ学ぶことばかりではありますが、今後も現場経験を積み重ねながら知識を深め、森林が持つ多様な役割や重要性について理解を深めていきたいと思っています。そして、地域の方々に親しまれる森林を守っていけるよう、日々の業務に真摯に取り組んでいきたいです。